



ハッと、気づく

学 園 長 小 島 澄 人

「子どもは見抜く天才」、真剣に関わっている親の姿、まめに気遣う先生の姿、本当に子どもはよく見えています。自分のことを大切にしている姿は子どもを安心させてくれます。その逆もまた言えます。新入園児が「ママがいい！」と、叫び泣き続ける、そして今では「先生大好き！」に変わってきました。ママも先生も「だいすき」、それは自分を大事にする方だと見抜いているのです。幼稚園の門に立って迎えていると、子どもたちからいろんな声が聞こえてきます。「どうしてめがねをしないの」、「あっ、髪切ったの」、「今日はうれしそうだね」、「くつ、新しくしたの」・・・、本当に子どもはよくみえています。確かにその通りです。園長が門で迎える、当然かも知れないが、朝の挨拶をしないで通り過ぎていた子から「あっ、靴が新しい」と、言われた時は本当にびっくりしました。めがねはマスクをするときもってしまうので・・・、といたいことも、「そうね、めがねしない園長先生です」と。

先生方に「見えないものが見え、聞こえないものが聞こえ、感じられないものが感じられる」ように話しますが、子どもたちはよく気が付きます。子どもの変化、家族の思い、同僚の思いがよく解ると、何かをしてあげたい、そんな人になりたいものです。

先日、地方紙の記者が取材に来ましたが、何日かすると門に立っていると、道行く人たちが「読んだよ、頑張ってるね」、わざわざ自転車でやって来て「読んだよ、涙が出ました」、いろんな人が教えてくれました。私はその記事、見てもいなければ知らなかったのです。ボーイスカウトの会合でもそうでした。未だにその記事には出あえていません。けど気づいてくれたことが嬉しかったです。嬉しいことがまたありました。

「おっ、小島さんだね」、そう声かけてきたのは、95歳のお年寄り、郵便局でのことです。そのおじいさんは36年程前、私が人生の勉強にと魚市場で働いた時に、一緒に頑張った仲間でした。幼稚園の仕事が終わり、9時頃一眠りし、12時頃魚市場に行き、マグロや鯛、いろんな魚を競りなどして、店頭で売る仕事です。初めてのことで必死でしたが、このおじいさんに助けをいただきました。朝6時頃帰ってきて、また幼稚園でした。あの時は一日中働きっぱなしでしたが充実した日々でした。そのおじいさんは、「生きるって、苦しいよ」と、言いながらもまだまだ元気でした。むしろ元気をたくさん頂きました。

もっともっと私もよく気づく人に、園長にならないと、駄目だ、ありがとう！みんな。

